

旭川地区 教育経営研究会

- 1 目的 教育改革の進行に伴う課題や教育情勢に関する情報を的確に把握して学校経営に関する諸課題の解決に向けた理解を深め、校長としての資質向上を図る。
- 2 主催 北海道小学校長会
- 3 主管 旭川市小学校長会
- 4 日時 平成30年7月30日(月) 10時00分～
- 5 会場 旭川市神楽公民館 講堂
- 6 参加者 旭川市小学校長会員他(60名)
- 7 日程 10時00分～10時10分 開会式
10時10分～10時40分 研究協議1：教育情勢報告
北海道小学校長会 会計理事 神谷 敦 氏
10時40分～11時25分 研究協議2：質問・要望事項に対する回答
北海道小学校長会 情報部幹事 小笠原康友 氏
11時25分～11時35分 閉会式
- 8 進行 旭川市小学校長会 学校経営部(部長)高橋 一寛 (副部長)山川美千代
- 9 開会式 旭川市校長会：川島政吉会長の主催者挨拶で開会し、旭川市校長会：鎌田優子副会長が北海道小学校長会役員紹介を行った。

10 教育情勢報告 ～神谷会計理事～

(1) 北海道小学校長会の活動について

平成30年度、道小は結成61年目、道中は71年目を迎える。総会研修会(5月)、理事研修会(道小5回、道中6回)、全連小総会(東京)、全道会長研修会(6月)、小中合同事務局研修会・合同学習会(7月)等の研修会を実施しているほか、道小14回、道中9回の事務局研修会を行い、各部活動の進捗状況確認や、教育情勢の研修、各地区の会員情報の交流等に努めている。

(2) 北海道教育委員会との関係について

道小・道中・道公教で「北海道文教施策・予算策定に関する要望書」を5月に道教委へ提出し、8月の文教対策懇談会で、道教育長をはじめ道教委幹部から直接説明を受けている。分科会では各課課長・主幹クラスの幹部と教育施策について話し合っている。

(3) 北海道小学校長会教育研究大会について

道小活動の柱と位置付け、研究発表の内容の精査や司会進行などについて3回の分科会運営者研修会で検討し、学校経営に資する熱心な討議が展開されるように準備している。大会主題は、全国連合小学校長会研究大会・三重大会で設定した「新たな知を拓き、人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を北海道大会でも踏襲している。

(4) 教育情勢についての説明

児童生徒の学力___保護者を対象とした調査では、「保護者が規則的な生活を送らせ、本や新聞を読むように促している子ども」は、保護者の年収や学歴が低くても、学力が高い傾向にある。子どもの読解力を向上させるには、「教科書を毎日、書き写すことや音読」が有効である。



新学習指導要領・Society 5.0 ____地教委への調査では、8割が小学校プログラミング教育の情報収集、もしくは何もしていない段階にあり、そろそろ準備を始める頃に差し掛かっている。小学校英語の成績評価は、まだまだ手探り状態であり道教委から状況に応じて情報提供される。考え議論する道徳は、価値観を押し付けず、自分事として考えられる教育が求められている。

人材確保____大量退職や志望者減のため、5月に全道で70人の教員不足となり、免許更新を終えずに失効する教員も増えている。優秀な人材が他の専門職に流れない施策が求められる。

学校における働き方改革____多忙解消には授業以外の仕事の仕分けが必要で、文科省からは、登下校の見守り、清掃、休み時間の対応、成績処理など、仕事範囲のモデル案が示される予定。教員間の関係性がこじれることが増え、管理職にはラインケア視点が必要とされてきている。

児童生徒の安全、いじめ問題____通学の安全を守るため、「人の目」がもつ抑止効果は高い。

多様な人々への対応____大学で性的少数者の受け入れが始まり、学ぶ権利等が問われている。色覚障害の生徒への差別発言に対し、道に賠償が命令じられ、人権への対応も求められている。

道内の教育情勢____多忙期の超勤を認める代わりに、長休中に休日をまとめてとりする変形労働時間制の導入が自民提案される。多くの受験者を確保するため、全国的に小学校教員試験で実技試験を緩和したり、即戦力を求めて、臨時的任用教員の選考を優遇する動きが出てきている。

11 質問・要望事項に対する回答 ~小笠原情報部幹事~

(1) 学校経営の充実への対応

「北海道アクションプラン」が提示され、その実現が求められている中で、教師が子どもと向き合う時間の確保の進捗状況など、道小として構想している具体的な取組について



札幌市は、学校閉庁日や勤務時間外における市教委へ転送電話対応を整備しつつある。旭川市でも、組織として要望をあげながら、旭川市教委の推進プランに照らして取り組んでほしい。

(2) 道徳科、外国語の評価

保護者にも児童に分かりやすい道徳科や外国語の評価の先行事例について

「評価は、年間や学期にどれだけ成長…」に照らし、年間は要録で、学期ごとは通知表で伝えられるように、併せて、高学年英語の対応も含めて先進校などの資料を参考にしてほしい。

(3) 高学年担任の負担軽減策

授業時数の多さや外国語導入など、高学年担任への負担増が続き、担任希望は激減している。

『高学年手当』を制度化し、業務量に見合った勤務評価をしなければ、益々なり手がなくなることが懸念される。道小としての見解及び道教委への働きかけについて

校長会をあげて、こういった具体的な要望をあげていくことが大切。そうすれば、北海道文教施策・予算策定に関する要望書に盛り込んでいくなどの展開も考えられるかもしれない。

(4) 独自削減の撤廃について

管理職給与の独自削減に関わる取組状況と今後の見通しについて

一般職員の給与縮減措置は平成27年度で終了し、管理職は今年度7%から1.5%に緩和されこの後、2年間継続される。一方、退職金の減額なども取り沙汰されており注視が必要となる。

(5) 主幹教諭の配置について

主幹教諭の配置に関わる今後の見通しについて

道教委の配置の考え方に照らし、「18学級以上の小学校」のほか「学校運営に課題が見られる学校で主幹教諭の配置により課題を解決しようとする学校」に配置される。

12 閉会式 旭川市校長会：藪和幸副会長の挨拶で閉会し、役員兩名を感謝の拍手で送りました。